E-Oral Presentation | 一般心臓病学/心臓血管機能

E-Oral Presentation　7 (II-EOP07)

Chair:Miho Takahashi(Department of Child Health, Faculty of Medicine,University of Tsukuba)
Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 7:15 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:15 PM - 7:15 PM

[II-EOP07-03]先天性心疾患は出生後の発育不良に影響を与えるか？

○浅沼 賀洋[1], 中野 玲二[1], 伴 由布子[1], 古田 千左子[1], 田中 靖彦[2] (1.静岡県立こども病院 新生児科, 2.静岡県立こども病院 循環器科)

Keywords:先天性心疾患, 低出生体重児, 子宮外発育遅延

【背景】極低出生体重児(VLBWI)において頭囲の子宮外発育遅延(EUGR)が神経発達障害のリスク因子であるとの報告があるが、先天性心疾患(CHD)が EUGRの原因となるかは明らかでない。【目的】 VLBWIにおいて CHDが修正40週時の体重、頭囲に影響を与えるか検討する。【方法】2010～2016年に出生し当院に入院した CHD合併VLBWIの中から愛護的ケアのみを行った5例、染色体異常6例、修正40週前に死亡した3例、転院した6例を除外した12例を対象とした。この CHD群に対して出生時期、在胎期間、出生体重をマッチさせた CHDのない対照群24例を抽出。両群の修正40週時点での体重、頭囲とそれぞれの成長速度（出生時から修正40週の SD値変化:Δ SD）を比較した。修正40週時の体重、頭囲が10% tile未満を、それぞれ体重 EUGR、頭囲 EUGRと定義した。【結果】両群の在胎期間、出生体重、出生時頭囲に差はなかった。 CHD群は在胎27週5日(26週0日-35週1日)、出生体重836g(504-1440)。以上は中央値（範囲）。疾患症例数は VSD 3、 ASD 3、 CoA/IAA 3、 PAVSD/MAPCA 1、 CoA合併単心室1、肺動脈狭窄1。修正40週前に動脈管結紮以外の手術施行例は5例。修正36週時の慢性肺疾患、消化管穿孔の発症に有意差はみられなかったが、 CHD群で敗血症が多く、経腸栄養100ml/kg/day到達日齢が遅い傾向がみられた。体重 EUGRは CHD群11/12例 vs 対照群23/24例で有意差はないが、40週時の体重 SD値は CHD群で有意に低く(p=0.016)、体重Δ SDも低かった(-1.93(-5.37 to -0.73) vs -1.20(-3.51 to -0.33);p=0.0496)頭囲 EUGRは CHD群5/11 vs 対照群2/22 (欠損値あり)で、 CHD群で有意に多く(p=0.027)、頭囲Δ SDも有意に低かった(p=0.022)。【結論】 CHD群で頭囲 EUGRが有意に多く、体重Δ SD、頭囲Δ SDが低かった。 VLBWIにおいて CHDは EUGRのリスク因子となりうることが示唆された。より積極的な経静脈栄養、消化管合併症予防のための母乳栄養など、栄養法の改善が求められる。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery